No.10

評 様式10

課題対応取組報告書 【共通】

名称	淀川区南部地域包括支援センター
提出日	令和 8 年 5 月 28 日

カテゴリー（※主なものをひとつチェック）				
	☑	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☑	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（ ）		

活動テーマ	我がごと、丸ごと、つなげよう、地域の輪
地域ケア会議から見えてきた課題	令和6年度の個別地域ケア会議（14回）では、認知症（疑い含む）や判断力低下（各79%）、金銭管理（64%）、子ども同居や家族関係の複雑さ、経済問題、養護者からの虐待（各50%）が主な要因だった。 課題抽出会議では、「集まる場が少なく孤立しやすい」「関わりを拒否する」「外国人を含む転出入が多く地域とのつながりが薄い」といった課題が挙がった。 高齢者本人だけでなく子・孫世代への働きかけが必要なケースが増え、問題が深刻化してから表面化することもあるため、包括の周知強化とネットワーク拡大により、早期発見・早期対応を進める必要がある。
対象	地域住民や地域組織・団体、専門機関
地域特性	淀川区南西部に位置し、神津・十三・新北野・田川・塚本・野中の6地域を担当する。阪急十三駅・JR塚本駅を中心に国道176号線や山陽新幹線沿線に広がり、商店や飲食店、タワーマンション、医療・介護事業所が点在する一方、工場や企業が多い地域もある。高齢化率は地域により約20～25%と差がある。
活動目標	1.高齢者を含めた幅広い世代に向けた周知活動を工夫して広げていく 2.様々な分野や世代の関係機関、地域関係者との支援の輪を広げて早期発見し迅速な対応ができるネットワーク体制を構築する
活動内容（具体的取組）	1. 地域との取り組み 〇地域行事・会議・防災訓練等に参加し、顔の見える関係づくりを進めた。 〇栄養講座やeスポーツ体験会を開催し、介護予防の啓発と包括の周知を行った。 〇チラシ・ポスターを薬局、掲示板、マンション、商店等に掲示し周知を強化した。 〇民生委員会と定期会議を行い、「気になる高齢者」の情報共有と見守り体制の調整を行った。 〇地域団体の学習会で、包括・権利擁護の周知を実施した。 2. 専門機関との取り組み 〇見守り相談室・認知症初期集中支援チームと、ケース共有や見守り体制づくりの会議を定期開催した。 〇4事業で連携し、商店街イベントや図書館での認知症サポーター養成講座の際に、包括を周知した。 〇薬剤師会との会議にケアマネも参加し、情報共有・意見交換を行った。 〇交流会（わいわい南部）とBCP研修を開催し、ネットワークづくりを進めた。
成果（根拠となる資料等があれば添付すること）	総合相談の延べ件数は、昨年度9,759件から今年度9,872件へ増加した。地域の集まりへの参加は66件（昨年度53件）に増え、包括の周知を進めるとともに、各種会議の出席・開催を通じて地域情報や課題を共有し、顔の見える関係づくりを行った。また、淀川図書館で認知症サポーター養成（21名）、口腔ケアセミナー（14名）、健康チェックイベント（51名）を実施し、幅広い世代への周知につなげた。さらに、南部圏域交流会を開催し、地域・医療・介護・行政の関係者62名が参加してネットワーク構築を図った。
今後の課題	1.高齢者を含めた幅広い世代に向けた周知活動を継続する。 2.地域住民や関係機関への認知症の理解を促し、早期発見・早期対応に務め、見守り体制の構築する。 3.認知症予防や介護予防を地域の状況に合わせて啓発を進める。 4.様々な分野や世代の関係機関、地域関係者との支援の輪を広げネットワーク体制を構築する。

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター運営協議会開催日	令和8年7月8日（水）
専門性等の該当（※該当個数は問わない）	☑ 地域性 ☑ 継続性 ☑ 浸透性・拡張性 ☑ 専門性 ☑ 独自性
評価できる項目（特性）についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	地域の活動（ふれあい喫茶・百歳体操など）に参加し、地域住民と顔の見える関係づくりを進めています。また、図書館と継続的に連携し、オレンジチームと一緒に認知症サポーター養成講座についてのちょうせいができている。交流会「わいわい南部」も対面開催を再開し、住民同士・関係機関との交流の機会を確保できるようになりました。さらに、栄養講座やe-sports体験会を通じて、幅広い世代に地域包括支援センターの活動を周知できています。